THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA HATSUKAICHI

広島廿日市ロータリークラブ 会報

2020年 11・12月号 No.428

◆◆◆ 本年度会長方針 ◆◆◆

「こんにちは、ロータリーです。」～心のドアをノックしよう～

例会日／毎週月曜日 12:30 ～ 13:30
例会場／広島サンプラザ　TEL (082) 278-5000
会　長／松本　　猛　　幹事／松野　正信

事務局
〒738-0015 広島県廿日市市本町５番１号
廿日市市商工保健会館 4F
TEL（0829）31-5490　FAX（0829）31-5491
E-mail ／ office20@h-hrc.com
URL ／ http://www.h-hrc.com/

第1057回　広島サンプラザ　2020年11月9日

会長時間

会長　**松本　　猛**

誕生祝

米山奨学金授与

卓　話

「私の好きなもの —誰もが知っている○○」

渋下　孝志　会員

こんにちは。渋下です。

卓話をということなのですが、会員の卓話は皆さんご自分の職業や仕事にからめた話をされるのが普通のようですが、私は仕事以外の時間は一切自分の仕事のことは考えたくない性分なもので、今日は仕事の話ではなく私の趣味の話を聞いていただきたいと思います。タイトルは「私の好きなもの—誰でも知っている○○」としました。

○○と思わせぶりに言葉を伏せていますが、何という言葉が入るのか？…。二文字とは限りませんよ。私が変な人間だということは既に皆さんに知れ渡っているとは思いますが「私の好きなもの」ということで、不埒な想像はしないでください（笑）。まあ、変な人間なので○○に入る言葉は実は「クラシック音楽」です。

私は子供の頃からクラシック音楽が大好きですので今日は私とクラシック音楽の関わりについての話を聞いていただくことにしました。ただクラシック音楽についてのうんちくを傾けまくったのでは、聞かれている方には興味もないドン引きの話になってしまいますので、それは避けなるべく皆さんに面白く聞いていただけるようにしようと、曲のタイトルは知らないが聞いてみればおおよそ誰でも知っている曲を聴いてもらいながら話をしようと思います。とは言ってもただでも長いクラシック音楽を長々聴いていただくわけにもいきませんので、途中で適当にフェイドアウトさせてもらいます。

また話のおおざっぱな構成を申し上げておきますと、前半は私自身の話がメインで聞く曲もいささかアカデミックですので、少し退屈される方もあるかもしれません。しかし後半はクラシック音楽が好きであろうとなかろうと関係なしでノリノリで聴いていただけること間違いなし！ルンルンで帰っていただけること請け合いですのでくれぐれも前半で席をお立ちにならず最後までご清聴お願いします。

自分がクラシック音楽が好きだと自覚したのは実は小学校４年生のときです。そうは言っても商売人の家庭に育ち音楽などという環境は全くと言っていいほど何もなく、家にはステレオもない、あってもポータブルプレーヤーが１台あるだけ、そんな環境でどうしてそんなことになったのか不思議なのですが、きっかけは小学校の音楽の授業にあります。

私は袋町小学校だったのですが、音楽の授業の際、普通教室から音楽教室に移動します。小学校４年生のときに音楽教室に移動する際にわくわくどきどきしている自分に気がついたのです。なぜだ？と自問自答しました。音楽の先生が音楽の時間によくレコードをかけて教科書に載っているクラシックの音楽鑑賞曲をかけて聞かせてくれるのです。今でこそ教科書に載っている音楽鑑賞曲はビートルズやSMAPなどもありますが、当時はクラシック音楽しかありませんでした。それが聴けるのが楽しみで待ち遠しくてしかたがない自分に気が付いたのです。後で考えると音楽の先生が初老の男の先生だったのですが、要は先生が手を抜くためにそうしていたんでしょうが、それが私にとっては大変ありがたいことになりました。

小学校の教科書ですからクラシックといってももちろん初級者向けのやさしい曲ばかりでした。例えば「エリーゼのために」とか「ラデツキー行進曲」とか…。その中で今でもはっきり覚えている印象深い曲は実はヘンデルの「愉快な鍛冶屋」、「調子のいい鍛冶屋」とも言いますけど、その曲です。それからしばらくヘンデルという作曲家にすっかりはまっていました。

ヘンデルはバッハと同時代の同じドイツで生まれたバロック音楽時代の作曲家でイギリスに渡たり活躍しました。もっとも有名なのは「ハレルヤコーラス」とか「水上の音楽」とかご存じの方も多いでしょう。バッハはとても深い作曲家で、ヘンデルはそこまで深くはないですが、とにかく根あか、根が明るい作曲家です。そこが小学４年生にはよかったのでしょう。そういう訳で本日最初の曲として誰もが知っている曲ではないかもしれませんが、小４のときに私がほぼ最初にクラシックにのめり込むきっかけとなった「愉快な鍛冶屋」を最初の方だけですが、聞いてください。ピアノの前身のハープシコードの曲です。この曲の中にトンテンカン・トンテンカンという音型が盛んに出てくるので「愉快な鍛冶屋」というニックネームがついたようですが、正式には「ハープシコードのための組曲集第一集第五番の第四楽章アリア」という名前の曲なのだそ

うです。いかにもクラシック音楽ですよね（笑）。
次にヘンデルの最も有名な誰でも知っている曲を聴いてください。ヘンデルといえば「ハレルヤコーラス」が有名ですけどそれではありません。タイトルはオラトリオ「マカベウスのユダ」という英雄を讃える曲集の中から「見よ勇者は帰る」という曲です。「見よ勇者は帰る」。タイトルを聞いだけでは誰もわかる人はいませんよね？。でも曲は世界中のほとんど誰もが知っている曲です。聞いてみてください。ヘンデルに表彰状をあげたくなりますね。
こんなのも皆さん結構聞いたことはあるのではないでしょうか。ヘンデルのハープ協奏曲の第１楽章の最初の部分です。ねっ、聞いたことあるでしょう？
小学生のときの親からもらう小遣いは月200円と決まっていました。袋町小学校の校門を出てすぐのところに中山楽器店があり１階にレコード売り場がありました。当時LPレコードは１枚が2000円でこれは到底買えない。買って帰っても家にはステレオもない。でもその隣の棚にEPレコードがあり、これが１枚400円。これなら２か月お菓子を買うのを我慢したら買える。その２か月の間に次にどのレコードを買うか、ヨハン・シュトラウスの「オーストリアの村つばめ」にするかはたまたスッペの「軽騎兵」序曲にするか、学校帰りに毎日寄っては品定めをして帰るのが至福の時でした。ほんと変な小学生ですが、好きというものはそんなものです。
中学に入って吹奏楽部がありそれに入ればよかったのですが、私は管楽器があまり好きではありませんでした。弦楽器とくにヴァイオリンの音色が大好きでした。そこで親にねだって一番安い３万円の鈴木ヴァイオリンを買ってもらって子供の頃からヴァイオリンを習ってる同級生に教えてもらいながらヴァイオリンを弾いていました。
本通りに木定楽器店がありますね。ご存じですかね？そこの木定会長と私の父親が修道の同級生だった縁もあり、「木定に注文しておいたからもらってこい」と言われ木定楽器店に行くと、会長さんから「お前本当に渋下の息子か？なんという突然変異じゃ」と驚かれたのを覚えています。
大学に入り学生オーケストラでヴァイオリンを弾けるようになったのは無上の喜びでした。また大学２年生の夏休み45日をフルに使って同じ趣味の友人とふたりで本場ヨーロッパを貧乏旅行し、ミュンヘンのバイエルン国立歌劇場でオペラを見、その素晴らしさにすっかりオペラにはまってしまったりしていましたが、これ以降の話は話し出すと長くなるので割愛します。
バロック音楽・古典派・ロマン派・国民楽派・後期ロマン派・近代といろんな時代のいろんなジャンルのクラシック音楽を今まで聴いてきたのですが、ここで１回だけ皆さんにドン引きしていただきます。というのも、私が今までいろいろ聞いてきて「行きついた先」がどんなものかも聞いていただきたいと思ったからです。もうひとつ、こんなわかりやすい曲ばかり聞いていると思われてはしゃくだという気持ちもあります。
近代音楽というか現代音楽に近いかもしれませんが、ドレミファソラシドの音階は全音を半音に割っていけば全部で12の音になります。（７音と12音の説明。）これを均等に使って音楽を生み出そうということをシェーンベルクという作曲家が始めました。いわゆる12音音楽です。それを引き継いだのがアントン・ヴェーベルンとアルバン・ベルクで、この３人のことを新ウイーン楽派と言います。新しいウイーン楽派。モーツアルトやベートーヴェン・シューベルトなどの昔のウイーン楽派に対比する呼び方です。
12音を均等に使うということは、ハ長調とかト短調とか変ホ長調とかいう調性が無くなります。いわゆる無調音楽になります。調性のない音楽です。調性のある音楽に慣れ親しんでいる私たちには訳のわからない音楽です。私も最初のうちはまったくわからない…。でもそれではしゃくなので、車のカーオーディオで普段から流して運転しながら聞いていました。そしてしばらくたったとき、車に載ってエンジンをかけ、カーオーディオからこの曲が流れてきたときに、不意に「なんて美しいんだ」と思ってしまいました。音楽は頭で理解するものではない。感性で感じ取るものだということを思い知らされた瞬間です。
それではその曲、ヴェーベルンが1909年に作曲した「弦楽四重奏のための５つの楽章」の出だしの部分だけ少しお聞きください。1909年作曲ですから、もう110年も前の音楽です。私の大好きな曲です。
どうですか？美しくてカッコイイでしょ。１回だけドン引きしてもらいました。
続きまして、ここからが後半ですのでご期待ください。最近発売されたCDがめちゃくちゃ面白かったのでこれをご紹介します。タイトルは「世界に冠たる日本の行進曲」。大げさなタイトルがついていますが、武藤英明さんがロンドン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮して日本のいろいろな行進曲を演奏しているのですが、これがとても面白いんです。
まず最初は今放送していますNHKの朝の連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルになっている古関裕而さんの曲です。この古関裕而さんはとても素晴らしい作曲家で、えっ、この曲も古関裕而作曲なの？と驚かせられる人です。憎き阪神タイガースの応援歌「六甲おろし」、同じく憎き読売ジャイアンツの応援歌「闘魂こめて」、ザ・ピーナツの「モスラーやモスラー」、藤山一郎さんの「長崎の鐘がなる」、伊藤久男「イヨマンテの夜」、二葉あき子「フランチェスカの鐘」、岡本敦郎「高原列車は行く」、映画「君の名は」の主題歌。戦時中の軍歌で「勝ってくるぞと勇ましく」（「露営の歌」）とか、「赤い血潮の予科練の」（「若鷲の歌」）も古関裕而作曲です。本当に素晴らしい作曲家です。
ではこの古関裕而さんの行進曲をお聞きください。ご存じ1964年の東京オリンピックのオリンピックマーチでした。次はこれです。CD「栄冠は君に輝く」今年は甲子園の高校野球が中止になってとても残念でした。
この演奏、実に自然な演奏ですが、さっき言いましたようにこのオーケストラ、ロンドン・フィルハーモニーというイギリスのロンドンのメジャー・オーケストラですよ。日本円の強さがなさしめたCDです。
次にレイモンド服部さん作曲の「コバルトの空」という行進曲です。レイモンド服部の「コバルトの空」なんてどなたかご存じの方います？誰もいませんよね。私もそうでした。でも聴けば日本人ならおそらく誰でも知っていると思います。
次はまた古関裕而さんで「スポーツショー行進曲」です。
次は黛敏郎さん作曲の「スポーツ行進曲」です。これは短い曲なので最後まで聴いてください。
これで正真正銘の最後になりますが、高井達雄という作曲家が作曲した超有名な曲をご自身が行進曲にアレンジした曲です。高井達雄さんなんて作曲家誰も知らないでしょう。もちろん私も知りませんでした。でもこの曲は日本人なら誰でも知っています。
CD「鉄腕アトム」ご清聴ありがとうございました。

第1058回 広島サンプラザ 2020年11月16日

会長時間

理事会報告

副会長 **今川 勝**

PHP認証バッチ授与

卓 話

「川添商店と私」

川添 榮子 会員

第1059回 広島サンプラザ 2020年11月30日

会長時間

会長 **松本 猛**

米山奨学金授与

卓 話

「現在の私」

松野 正信 会員

50歳を過ぎ、脳梗塞２回、脊柱管狭窄症で入院しました。その時有り余る時間があり、社長をいつまでやるか、後継者はどうするかなど将来の事を真剣に考え始めました。親族内は娘２人で継ぐ意思もなく、社員にも話をしましたが荷が重いようで無理。あとは第三者へのM&Aによる事業承継しかありません。

縁あって同業の有限会社ジーシーとの合意にもとずき昨年の12月に契約し完全子会社化になりました。65歳ぐらいを目標に考えており、思いの外早まり戸惑いもありましたが、年初からのコロナ過を思うと最善の時期でした。

代表取締役社長を退任し一社員になりましたが、親会社が後悔しない為にこれからも会社発展に尽力していきます。

当クラブでは今年度幹事をさせて頂いておりますので、最後のクラブ奉仕に徹しようと思います。

第1060回 広島サンプラザ 2020年12月14日

会長時間

会長 **松本 猛**

誕生祝

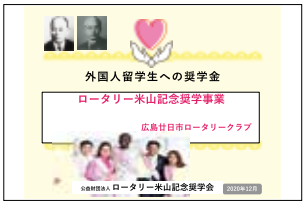
卓 話

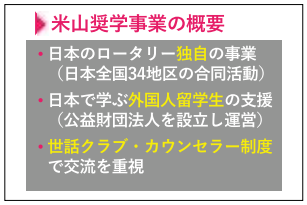
「年次総会」

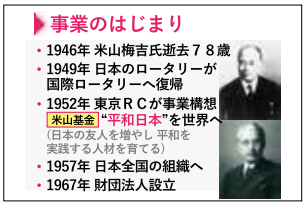
今川勝会長エレクトスピーチ

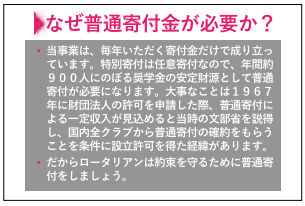
「米山・ロータリー財団について」

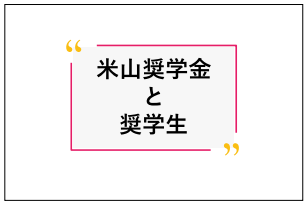
上杉 昌幸 会員







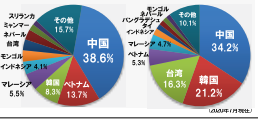




国内最大級の奨学生数

2020 学年度 883人（新規614人 / 継続269人）

累計21,624人（129の国と地域）



奨学生数の決定と選考

採用基準（全国統一）

- 勉学への意欲、人物面・学業面が優秀、将来日本との懸け橋になりうる人材
- 家庭状況、経済状況は評価対象外

将来の目標 / 留学の目的 / 交流への熱意 / 人間性 / 人柄 / コミュニケーション能力 ＋ 地区裁量

奨学生に関わる危機管理

自然災害 / 病気・事故 / ハラスメント

地区米山奨学委員会 →危機管理委員会へ報告・対応

地区単位のLINEグループ等

2020学年度より現役奨学生の傷害保険（例会出席時）

奨学生 →ハラスメント相談窓口

ロータリアン →賠償責任保険

業務委託・覚書の締結

- 2020学年度からスタート

米山記念奨学会 → 地区（・ガバナー・ガバナーエレクト） → 世話クラブ（・会長・会長エレクト）

毎年12～2月 業務委託に係る覚書：原本(2部)は、①ガバナー事務所 ②米山奨学会で保管

毎年2～3月 業務委託に係る覚書（世話クラブ）：原本(2部)は、①ガバナー事務所 ②世話クラブで保管。写しをPDFで奨学会へ提出

コロナ禍への対応と交流

- 奨学会の対応

■日本へ入国できない奨学生

コロナ禍で日本に来られない奨学生

⇨ 毎月、「奨学生報告書」の提出を求める
⇨ カウンセラーとの密な連絡、オンラインでの例会参加を推奨
⇨ 8月より奨学金を半額とし、帰国月から全額支給

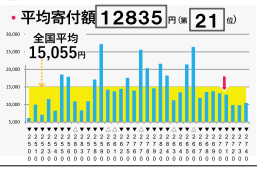
■世話クラブの例会が休会の奨学生

⇨ 例会場以外の場でクラブから奨学金を手渡し
⇨ カウンセラーとの密な連絡を推奨

寄付金の状況

寄付実績 個人平均

- 平均寄付額 12835円（県 21位）



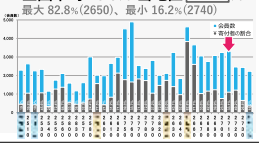
寄付実績 個人平均

	当地区	全国平均
個人平均寄付額	11,400円	15,055円
−普通寄付金	4,644円	4,788円
−特別寄付金	6,756円	10,267円

寄付実績 特別寄付者割合

- 全国平均 45.8% 当地区 33.1%

最大 82.8%(2650)、最小 16.2%(2740)



広島廿日市ロータリークラブの寄付額は？

- 個人平均寄付額　4,129円
- 普通寄付金累計額3,430,000円
- 特別寄付金累計額7,805,500円
- 寄付金累計額　11,235,500円

- 2020年３月３１日現在

ご寄付は奨学事業に

- 寄付は前年度から7,500万円減

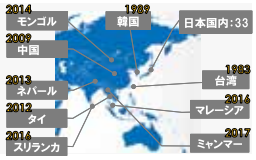
収入：寄付金総額：13億3,600万円
普通寄付金 425,036 / 特別寄付金 911,285 / 配当金 90,000 / 料子収入 48,679 / 当期正味財産増減少額 33,183

支出：事業費計：14億6,200万円
奨学金 1,240,413 / 補助費(ポリ) 221,980 / 管理費 45,790（単位:千円）

利子＞管理費　管理費は支出のわずか3%

巣立った米山奨学生

学友会（国内33、海外9）



学友会の活動【国内】

2840：お祭りでボランティア
2750：カンボジアの教育支援
2660：RACとともに和食文化体験
2790：ロータリー学友と協力してBBQ

学友会の活動【海外】

台湾：日本人奨学支援12年目
韓国:日本人奨学支援5年目
マレーシア:学校へマスク寄贈
スリランカ:医療キャンプ

台北国際大会

- 国際大会期間中 2021年6月12日「出会いin台湾」
- 2年に1度開催される米山学友の世界大会

ぜひご参加ください！

台北国際大会

- 米山奨学会ブース出展 友愛の広場＆分科会開催

ぜひご参加、お立ち寄りください

学友からロータリアンに

- 239人（国・地域実績 38ヵ国）

台湾	韓国	中国	その他
82人	68人	48人	41人

- ガバナーになった学友：3人

林 隆義（リム ユンウィ）氏（韓国）1997-98年度 RID3650
許 國文（キョ コクブン）氏（台湾）2005-06年度 RID3490
林 華明（リン ファミン）氏（台湾）2015-16年度 RID3520

恩返しの気持ち 学友からの寄付

東日本大震災	約760万円
熊本大地震	約20万円(上海)
学友からの寄付	累計 3,768万円
遺言寄付	200万円

- 2019年度は学友から約180万円（うち98万円は創立10周年を迎えた東京米山友愛RCなどのロータリアン学友から）
- 毎月1万円、毎月2,000円などコツコツ継続寄付する学友も

知っておいていただきたい事

活動報告

廿日市小学校へ図書寄贈

2020年11月30日
廿日市市立廿日市小学校

広島廿日市ロータリークラブ
会長　松本　猛　様

廿日市市立廿日市小学校
校　長　北　川　千　幸
PTA会長　中島　賢一朗

図書費寄付のお願い

平素から廿日市市の教育の充実のために格別のご支援を賜り，厚く感謝申し上げます。

さて，本校は，ここ数年，広島県生徒指導実践指定校として，暴力行為，いじめ，不登校など生徒指導上の課題を解決していくため，子供の心と言葉を育てる教育を推進しているところでございます。子供たちに生きる力を付けていくためには，言葉の力が絶対に必要です。特に，言葉の力の中でも，語彙力が大事で，小学校以降学校で必要になってくる語彙は，日常生活から獲得するだけでは十分ではなく，読書で補うのが良い方法だと考えます。豊かな語彙力，つまり，知っている単語の数だけではなく深い理解を伴った語彙力をもつのに最も有効なのは，読書です。豊かな語彙力があれば，人間関係も豊かになり，人の気持ちが考えられる心豊かな子供に育つと考えております。

そこで，本校では，10 数年前から，司書教諭や読書活動推進員が中心となり，保護者や地域の方の協力を得て，本の読み聞かせ活動を積極的に行っております。また，総合的な学習の時間，社会科，理科などにおいて，課題発見解決学習に取り組んでおり，子供たちは，食育，環境，福祉，平和などの問題について考えるため，図書や資料を使って学習を進めているところです。

このような永年の取組が認められ，本年度，読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受賞いたしました。

今後も積極的にこれらの取組を充実させていきたいと考えているところですが，本校は，古い図書が多く，市から配分されている図書費も十分ではないため，７４８名の児童に，最新の図書を十分提供できる状況にあるとは言えません。

是非，事情ご賢察のうえ，多大なるご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

寄贈式の様子はFMはつかいちで放送されました。